

## 第41回KEKコロキウム

# 放置竹林がもたらす環境破壊

竹は古くから日本人の日常生活で利活用されてきたことから、その生産場所である竹林は常に管理されてきました。ところが、今日の就農者の高齢化と減少により、手入れのされない放置竹林が拡大しています。放置竹林となった里山は水源のかん養機能が低く、大雨の際には里山周辺の住宅地へ雨水が流入することや、タケが浅根性のために斜面の土壌に亀裂が入れば崩壊を招く恐れがあります。この他、放置竹林内は弱光のため、植相が貧弱となり生物多様の面で問題があります。こうした放置竹林は日本農業の衰退が招いた負の環境問題ですが、その実態は意外と知られていません。そこで、放置竹林の実態とその対策に関する活動事例などを紹介いたします。

平成20年11月6日(木) 13:30  
3号館セミナーホール ~15:00



講演者: 重岡廣男氏

静岡大学教育学部技術部総括技術専門員  
静岡県環境再生医の会会長 NPO法人自然環境復元協会理事  
谷津山再生協議会総括代表



大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構

<http://www.kek.jp/colloquium/No41.html>

※機構コロキウムは機構職員に対し研究教育に関連すること及び社会的な話題や情報を提供することを目的として実施しております。また、広く一般の方にも公開しておりますのでご自由に参加してください。